

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500030		
法人名	社会福祉法人 幸清会		
事業所名	グループホームみたらの杜		
所在地	北海道室蘭市絵鞆町2丁目22-3		
自己評価作成日	令和2年11月30日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0193500030-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和3年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・法人理念である「穏やかで楽しい尊厳ある生活を保障する」「その人らしいあたり前の生活を保障する」をもとに事業所理念の「地域に根ざした、高齢者の笑顔あふれるケアを提供すること」の実現を目指し、会議やミーティングにおいて理念の唱和を随時行っています。職員のスキルアップについては法人内研修や施設内研修をズーム等で実施しており、職員の経験年数や専門職に合わせた研修を実施しています。また近年社会問題となっている高齢者の権利擁護や高齢者虐待防止についても学びを深めています。施設内の運営としてはリスクマネジメント委員会を設置し、事業所の行事等の企画や施設として抱えている様々なリスクに柔軟に対応し直接的な施設運営に職員一人一人が責任を持って担っています。今年度は新型コロナウイルスの感染防止の為、地域への貢献を行えませんでした。面会制限の為、入居者様とご家族の面会はオンライン電話にて対応し、面会制限一部解除時には、飛沫感染防止の為、別棟でアクリル板越しに面会の機会を設けました。ご家族様には毎年恒例となっている季節の行事や日常の生活の様子を毎月発行の広報誌でお知らせすることで信頼していただけるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を職員間で共有し、都度自分のケアの振り返りと確認を行い、理念に基づいた地域に根差したケアに取り組んでいる。また、ユニット毎に目標を設定し、行動の指針としている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、町内会の祭りや盆踊りへの参加や手伝いを積極的に行っていたが、今年度はコロナ禍のため交流が難しく実施できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、介護福祉士養成校、介護初任者研修生、認知症実務者研修生の受け入れを行っているが、今年度はコロナ禍のため受け入れが難しく、広報誌やホームページの活用により実践状況を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議はコロナ禍のため関係者が集まる事は難しいため、今年度は資料や報告書の送付にてサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護支援専門員より利用者の入退去状況や介護認定の行進手続き、認定調査の実施報告を行っており利用者の認定調査では職員も聞き取りに参加させて頂いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所では日中の施錠は一切行わず自由に入出入り出来る環境を整えている。また事業所で毎月実施している施設内研修の中で高齢者虐待防止研修及び事例検討を行い身体拘束ゼロ・スピーチロックを行わない取組を職員間で共有し高齢者虐待防止法をスタッフルーム内に掲示し自己啓発に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてのマニュアルを整備し、法人及び事業所内研修会を開催し、虐待防止についての取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のパンフレットを設置し手続きが出来るような体制を整えている。また権利擁護研修も施設内で実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書や重要事項説明書の中で家族の不安や疑問には解り易く丁寧に説明し理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談・要望等の受付ポストを設け常に運営に関する要望を伝えやすい環境を整えている。また年に一度、無記名アンケートを実施しており真摯に受け止め改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の全体会議において意見や提案を述べ、運営に反映させる機会を設けてる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人就業規則を事務所内にてファイルいつでも閲覧可能にしている。福利厚生、法人並びに事業所内研修の充実が図られており、職員間の親睦や、自己研鑽の機会を多く設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修を始め法人内・外研修によって個々のレベルアップを図っている。また日々の業務の中ではOJTにより新人職員の育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	法人内・外研修の参加により同業者との交流の機会をもってサービスの質の向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み書等により事前に要望を受けると共に関係機関からの情報収集により混乱の無い入居に繋げるよう努めている。また事前訪問や見学の受け入れも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の見学の受け入れや事前訪問時に要望や不安を感じている事を伺い、要望に沿えるように説明を行っている。また支障の無い範囲で連絡を取り不安解消に努め信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報やご本人、ご家族との面談により状態を確認し、その時に必要と思われる支援を判断して他のサービスを紹介する場合もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が生活の中でこやかに自然に振る舞い受容的態度で接してる。掃除や調理等、職員が利用者から教えてもらえる場面を意図的に作り、ご本人の自信に繋がるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の気持ちや思いに考慮しながら共に支え合う関係を築くよう努めてる。面会時や電話連絡時には近況報告を行い職員の一方的なケアにならないよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナウイルス感染防止のため制限はあるが面会の場を設けたり電話での関わりで関係が途切れないように支援に努めてる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握したうえで食事の席を決め楽しく食事が出来る環境を整えている他、行事参加の際にも孤立する事無くお互いに支え合えるような場面づくりに努めてる。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により退去になった際も面会に行くなど、ご本人やご家族との関係性を大切にしている。またご本人・ご家族より相談があった際には助言を行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望、要望を確認すると共にアセスメントシートの活用によりケアに反映させている。また日々の関わりの中で変化に注意しご本人の思いを汲み取ることができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	他の福祉サービスや医療機関を利用されていた方は、その機関から情報提供して頂き、その他の方は本人・家族から情報収集し、これまでの生活状況を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定・排泄表・食事摂取の記録の他、ケース記録を基に職員間で共有し少しの変化にも対応できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議では日々のケアから職員間の意見の交換を行い、ご本人やご家族の要望や思いを汲み取り介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日常をケース記録にし職員間で共有をしている。体調や精神面の変化があった際はケース記録を基に対応策を検討し介護計画にも反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の通院についてご家族による送迎・付き添いが難しい場合には職員により行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣事業所と合同でSOSネットワークシステムを構築し町内会にも協力を得ている。また町内会をもとより近隣町内会及び他法人の施設と防災協定を結び相互に協力できる体制を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他、入居前からのかかりつけ医への通院支援を行って。新たな受診へ際には家族に相談のもと受診の支援を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師の配置により、利用者の日々の健康管理や医療上の相談を受けられるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には担当者や職員がお見舞いに伺い、不安や寂しさを軽減できるよう努めている。またご家族の意向を確認し病院側との連絡を密にし情報交換を行い早期退院目指している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りの指針についてマニュアルを整備し、入居契約時に説明、同意を頂いている。また事業所内研修において、看取りについて職員が一人一人考える機会を設けている。実際にご本人・ご家族の思いを尊重し出来る限り住み慣れた生活かが継続出来るよう医療機関と連携している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し研修会を開催し、閲覧できる場所に設置している。また暫く普通救命講習の受講を開催していないので実施する必要があると思われる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震において日中・夜間帯を想定した自主避難訓練を毎月実施する。また年2回の消防立会い避難訓練を実施し、近隣事業所や町内会と災害協定を結び相互に協力できる体制を整えている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中では自尊心に配慮した声掛けを行っている。特に排泄面での声掛けには中止を払い、プライバシーに配慮しさり気ない言葉掛けや対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の献立や入浴日、時間等ご本人主体で考えと共に、誕生日や行事の食事等、選択できる機会を多く設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	生活リズムの把握に努め、ご本人の日課や趣味、役割を發揮できるように支援している。またその日の体調や表情、気分にも配慮し、希望が叶うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意向を尊重しながら支援を行っている。また整髪に関しては理容・美容室と連携し定期的に訪問して頂き整髪のを機会を設け、その人らしい身だしなみが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度や片付けにおいて個々の能力に合わせてできるように支援している。また給食会議にて検討した季節を感じる事が出来るような食事を定期的に提供し、四季の移り変わりを体感できるような支援を行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内栄養士が立てた献立を基に栄養バランスを考慮している。また個々の状態に合わせて刻みやとろみ等の対応を行っている。誕生日や外出支援時には嗜好を捉えて支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きの声掛けを行い実施して頂いている。またご本の機能に応じて歯ブラシ・ウエットシート・スポンジ等を使用し口腔内の清潔保持に努めている。必要な方には歯科への受診を行い専門的なアドバイスを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し個別に合わせた排泄間隔の把握、状態に合わせたトイレ誘導、見守りを行っている。個々の排泄パターンを把握する事によりトイレで排泄できるよう支援し日中はオムツの使用が無くなるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取時には牛乳やヨーグルトなどを積極的に摂取して頂き、余暇活動の中で運動にも取り組んでいる。また排便間隔についても把握に努め必要に応じて腹部マッサージも行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴時間や回数は指定する事無く個々の希望に沿った入浴支援を行っている。またその日の体調や気分に合わせて、一人一人の入浴スタイルに合わせた支援、環境作りを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの体調や体力、生活リズムに合わせた休息時間を設けている。夜間は布団調整や室温・湿度整備と共に照明器具の点検を行い、安心して気持ちよく眠れるよう支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情ファイルを管理し、服薬マニュアルを職員全員が周知し安全に服薬出来る支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ楽しくできる家事やレクレーション等を把握し調理や洗濯物畳み、裁縫、歌等を取り入れている。また生活習慣に合わせ嗜好品の提供により、日々その人らしく楽しく過ごして頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	例年実施していた花見やドライブ等の支援はコロナ禍のため困難な状況であるが、ご本人の希望があれば天気の良い日は近所を散歩する等の支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が安心できる金額を家族が了承のもと自己管理として所持して頂いている。また各居室には小型金庫を設置している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの要望があれば電話や手紙のやり取りで家族や馴染みの方との絆が継続できるよう支援に努めている。また今年度はコロナ禍のためオンライン電話を実施している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所はリビングに面しており食事の支度の音や匂いが伝わりやすく心地よい生活感がある。トイレや浴室は玄関から奥の居室間にあり場所の把握がしやすく、またプライバシー保護に努めている。リビングには観葉植物を置いたり季節に合った写真を飾り居心地よく過ごせる工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには数名で座れるソファを設置している。音楽を聴ける環境とテレビで好きな番組を観られる環境を提供し思い思いに過ごせる環境作りを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の設えはご本人、家族と相談し馴染みの家具の設置や使い慣れた物を使用して頂き、安心して居心地よく過ごせられるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室の手すりの設置や障害となるような家具の移動等、環境整備を行い常に安全に配慮している。さまたヒヤリハットを活用し危険箇所には改善策を図っている。		